

集い対話する

疾病と共に健やかさを生きるために・社会の中で生きる医療となるために

JSPM

22nd

Congress of the Japanese Society for

Palliative Medicine 2017

第22回 日本緩和医療学会学術集会

患者アドボケイト・ラウンジ [PAL]
参加者募集

6.23 (FRI) ~ 6.24 (SAT)
パシフィコ横浜 PACIFICO
YOKOHAMA

大会長 有賀 悦子 (帝京大学医学部 緩和医療学講座 教授)

PAL募集期間 タイプA (ポスター発表あり)
2017.1.5 (THU) 10:00 ~ 2.15 (WED) 17:00
タイプB (ポスター発表なし)
2017.1.5 (THU) 10:00 ~ 4.21 (FRI) 17:00

参加費 タイプA、Bともに 3,000円

定員 165名

運営事務局 〒550-0001 大阪市西区土佐堀1丁目4-8 日栄ビル703A号室 あゆみコーポレーション内
TEL: 06-6441-5860 / FAX: 06-6441-2055 / E-mail: 22congress@jspm.ne.jp

お申込は第22回日本緩和医療学会学術集会ホームページから

<http://jspm2017.umin.jp>

詳細は裏面をご覧ください

第 22 回日本緩和医療学会学術大会 患者アドボケイト・ラウンジ (PAL) 参加者募集

この度当学会では、初めて患者アドボケイト・ラウンジを設置させて頂くことになりました。緩和医療・緩和ケアは、患者さんやご家族に伴走し、病気にかかったことで感じる苦痛を取り除きながら、生きていくことを共に考え支援するケアです。そのために、日頃の疑問を解決したり、話し合ったり、新たな知識や技術を得て、また、明日に活かしていくことができるよう学ぶ場として、学術大会が年に1回開催されています。第22回大会では、患者さんやご家族、ご遺族の方々にも入っていただき、多様化した社会や人との葛藤を乗り越えていく対話の場として位置づけていきたいと思っています。一部ご参加頂けないプログラムもありますが、PAL オリエンテーションを受けて頂くことで、できるかぎりご参加いただけるように準備しております。多くの方のご参加をお待ちしております。

大会長 有賀 悦子

●患者家族参画プログラムの目的

- (1) 患者・家族・遺族を支援する団体運営者または個人が、内外の緩和医療に関する知識と最新の情報を得ていただくこと。
- (2) 学術大会への参加で得られた知識や情報をもとに対話を深め、緩和医療の普及・啓発・向上と患者・家族・遺族を支援する活動に活かしていただくこと。

●プログラムの対象

がんや緩和医療に関わる疾患の患者・家族・遺族を支援する団体運営者または個人

※応募資格など、詳細は第22回日本緩和医療学会学術大会ホームページをご参照ください。

●プログラム一例

1. がんサバイバーシップの原点を語る Fitzhugh Mullan教授 (ジョージワシントン大学)
2. PALセミナー(軽食付き)
6/23(金)緩和ケアを歴史から紐解く
6/24(土)ひとはなぜ“痛み”を感じるのか?
3. 大会長講演(オープンプログラム)
4. 痛みは脳を変える
5. 大切な大人ががんになったとき～子どもたちを支えるために
6. 学校におけるがん教育
7. マインドフルネスを緩和医療に活かす
8. 市民参加セッション(オープンプログラム)
今を生きる～なにかと生き辛さを感じる昨今、“生きる”ことを一緒に考えてみましょう

※PAL 参加者は、第 22 回日本緩和医療学会学術大会におけるセッション（企業等がスポンサーとなっているセミナーや展示は除く）の聴講とポスター会場における閲覧ができます。

※オープンプログラムとは、学会や PAL の参加証がなくてもどなたでも無料で参加が可能なプログラムです。

プログラムの詳細、お申込は第 22 回日本緩和医療学会学術大会ホームページをご覧ください

<http://jspm2017.umin.jp/>

第 22 回日本緩和医療学会学術大会 患者家族参画プログラム(PAL)ワーキンググループメンバー

大会側代表：梅田 恵 昭和大学

患者側代表：天野 慎介 グループ・ネクサス・ジャパン / 全国がん患者団体連合会

大会側担当：渡邊 清高 帝京大学医学部

患者側担当：桜井なおみ 一般社団法人 CSR プロジェクト

野田真由美 NPO 法人 支えあう会「a」



ホームページは
こちらからもご覧頂けます